

2007年4月24日開催 第517回 番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 大村英昭委員 神谷徹委員
黒田勇委員 東野博昭委員(書面参加)

■ 毎日放送出席者

山本社長 石橋専務 本多専務 西常務 田中常務 上田常務
山西報道局長 西岡ラジオ局長 東編成局長 三村制作局長 熊広報室長

◆ 審議事項

「関西テレビの番組問題について」

毎日放送の第517回番組審議会は4月24日、大阪市北区の本社で開かれ、関西テレビの番組「発掘!あるある大事典」のねつ造問題を中心に意見を交換しました。

委員の主な意見は次の通り。

- *ねつ造がなぜ起きたかは調査委員会によってくわしく調べられているが、今後必要なのは、放送文化としての病巣を的確に見つける作業。その分析結果は放送業界だけでなく、社会と共有していく必要がある。
- *メディアはメッセージであり、現場で見るリアリティーとテレビが作るリアリティーとは異なる。テレビ・リアリティーについてきちんと説明できる専門家が、一連の問題のいろいろな委員会に入って、「何がねつ造なのか、何が事実なのか」という本質的な議論をきちんとすべきだ。
- *今回の問題が起こってしまった原因の一つは、下請け、そして孫請けという制作体制にあるのではないかという指摘がある。これは関西テレビだけに限った問題なのか、それとも、他局についても、起こりうる問題なのか。

- *少数のサンプルで、統計学的には意味がない結論がまかり通っている。科学番組ではないのに、科学的な体裁をとったり、科学的根拠があるかのように言うのが気になる。
- *番組審議会がますます社会的な見識を問われる存在になってきている。こうしたことが繰り返されていくと、放送への期待と信頼は失われていく。
- *なぜデータをねつ造することになったのか。それは厳しいスケジュールに縛られ、締め切りに追われ、プレッシャーを受けたことの結果だろう。つまり、ねつ造の一番の原因は『テレビ制作現場のハードワーク＝余裕のなさ』だと考える。

◆委員の交代について

音楽家の神谷徹氏が毎日放送番組審議会委員に就任、4月例会に初参加されました。